

声楽専攻 3 ポリシー

ディプロマ・ポリシー

■ 人材育成目標

声楽専攻では以下に挙げる人材の育成を目指しています。

- ・豊かな心を持ち、幅広い教養と高度な専門性を身に付けた声楽家、音楽分野の指導者
- ・演奏家、教育者、合唱指揮者、研究者等として、広く社会に貢献し得る人材

■ 卒業までに身につけるべき資質・能力

- ・声楽家としての基礎である呼吸法と発声
- ・多彩なレパートリーに対応できる豊かな音楽性と演奏技術
- ・演奏する作品に関わる歌詞解釈とその発音法など、専門実技に密着した語学力
- ・声楽家、音楽指導者に必要とされる基本的な能力

■ 学位の授与方針と評価方法

最終年次の「卒業演奏」を含めた所定の単位を修得した学生を卒業と認め、学士の学位を与えます。

- ・所定の在学期間の確認、必要単位修得の確認
- ・卒業演奏の評価・・・専門実技の学修成果を総合的に審査する「卒業演奏」は、複数の教員が様々な視点から個々に採点し、それらの集計結果により評価を決定します。

カリキュラム・ポリシー

■ 教育課程の編成方針

学生と教員の的一对一による実技レッスン、合唱やオペラ関連の実技系クラス授業に、音楽芸術言語などの関連科目を加えた多彩な授業科目とキメ細かな指導で、声楽家として必要不可欠な知識と演奏技術を身につけられるようにカリキュラムを編成しています。

■ 具体的なカリキュラム構成と特徴

- ・1年次から4年次まで指導教員との一对一の個人レッスンを通して、声楽家としての基礎である呼吸法や発声から、多彩なレパートリーに対応できる豊かな音楽性、演奏技術までを身に付けます。
- ・並行して1年次からは「合唱」、3年次には「オペラ基礎」「オペラ重唱」、4年次にはそれらを基にした「オペラ研究」が必修科目に組み込まれ、幅広い演奏活動を支える基礎能力を養います。
- ・外国語に関しては、教養教育科目としての文法や長文解釈などのクラス授業に加え、特に声楽学習者のニーズに応えるものとして、各人が実際に演奏する歌詞の解釈や発音をネイティブ・スピーカーに学ぶ「音楽芸術言語」のクラスを開講するなど、より専門に密着した語学力が養えるよう配慮されています。また外来のアーティストによるレッスンや特別講座、提携校への派遣留学制度などにより、国際的な学修経験を積む機会が設けられています。

■ 教育課程の評価方針・方法

- ・専門実技試験では、各学生の演奏を複数の教員が様々な視点から個々に採点し、それらの集計結果により評価を決定します。
- ・その他の授業科目については、各科目の担当教員がシラバスに定めた方法によって評価します。

アドミッション・ポリシー

■ 求める人物像

- ・豊かな感受性、想像力を備えている人
- ・演奏家としての資質を備えている人

・積極的に学び、音楽界、芸術教育界を将来担うべく意欲旺盛な人

■入学前に身につけてほしい学習成果

○専門実技能力・・・学ぶ上で大切にしたいことは、第一に自主的に学ぶ姿勢と、積極的に表現しようとする姿勢です。そして、各人の資質に応じた無理のない発声を身につけ、音楽と言葉に対する感性を磨くよう努力して下さい。

○音楽の基礎的能力・・・基礎的な読譜力と、ピアノの演奏能力を身につけてきて下さい。また音楽についての知識を積極的に吸収するよう心がけて下さい。

○基礎的な学力、語学力・・・歌詞を歌う声楽においては、日本語を含む語学力は必要不可欠なものです。加えて作品の背景を知る為にも、歴史や文学に関する基本的な知識を身につけて下さい。

■入学試験の基本的な方針・考え方

【一般入学試験】

・専門実技試験の結果に加え、音楽の基礎的能力試験（ソルフェージュ、ピアノ、楽典）と大学入試センター試験（外国語、他）の結果を総合して合否を判定します。

・専門実技試験では、演奏家としての資質、技術、表現力をみます。個々の受験者の演奏を複数の審査員が様々な視点から個々に採点し、それらを集計した結果により評価を決定します。

【推薦入学試験】

・書類審査（音楽活動記録、調査書他）の後、専攻実技試験、音楽の基礎的能力試験の結果を総合して合否を判定します。